

岡山市白壁地区の淡水カメ相

友近沙織・永田聖宣・武田和真・吉村雅子・亀崎直樹

700-0005 岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学生物地球学部

Freshwater turtles in Shirakabe ,Okayama

By Saori TOMOCHIKA, Kiyonori NAGATA, Kazuma TAKEDA, Masako YOSHIMURA, and Naoki KAMEZAKI

Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama, 700-0005, Japan

はじめに

日本に限らず世界各国で北アメリカ原産のミシシippアカミガメが持ち込まれ、生態系に大きな影響を与えていることが知られている(安川, 2002). しかし、その問題に対する対策は遅れており、その最大の原因はその生息分布が明らかにされていないことである. 多くの自治体では、分布の実態が明らかでないことから、その対策が立てられないでいる. そこで、筆者らは岡山市北区の白壁地区の5カ所のため池で、淡水カメ類の種組成を調べたのでここに報告する.

調査地と方法

調査地は筆者らが所属する岡山理科大学から北に約2km離れた岡山市北区白壁地区にある5カ所のため池である(図1). 池の名称については正式な名称が解らなかったので、新池、中池、ゴルフ場池、奥池、三角池とした. 新池は山陽自動車道の下にあり最も新しく護岸工事がされた池である. 中池は新池とは道を隔ててある池で、全体にハスが繁茂しており、周辺には畑地や人家がある. ゴルフ池は小規模のゴルフ場に隣接した場所にある. 三角池と奥池は新池、中池から谷をのぼったところにある. 周囲は雑木林に囲まれている.

調査期間は2014年5月18日～9月20日、捕獲はカメ用罠にアジ、オオナゴなどの餌をいれて、3から10時間後に引き上げた. 捕獲したカメは種・性を確認し、背甲長(CL; Carapace Length)と体重を計測した. また、密度の指標としてCPT(Catch per Trap; 谷口・亀崎, 2011)を用いた.

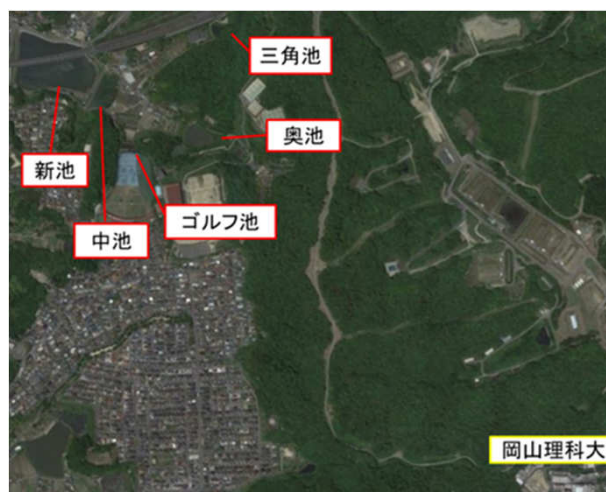


図1. 調査地(Google earthより)

表1. 池ごとに捕獲された淡水ガメの種、個体数(割合)及びCPT

池名	個体数(割合)					CPT(匹/網)			網の数
	クサガメ	アカミミガメ	スッポン	イシガメ	合計	クサガメ	アカミミガメ	スッポン	
新池	10(83%)	2(17%)	0(0%)	0(0%)	12	1.0	0.2	0.0	10
中池	39(75%)	12(23%)	1(2%)	0(0%)	52	7.8	2.4	0.2	5
ゴルフ場池	0(0%)	5(100%)	0(0%)	0(0%)	5	0.0	2.5	0.0	2
奥池	22(92%)	1(4%)	1(4%)	0(0%)	24	4.4	0.2	0.2	5
三角池	6(75%)	2(25%)	0(0%)	0(0%)	8	3.0	1.0	0.0	2
白壁全体	77(76%)	22(22%)	2(2%)	0(0%)	101	3.2	0.9	0.08	24

結果と考察

この調査では5ヶ所の池で3種101個体のカメが捕獲された(表1)。最も多かったのはクサガメ *Mauremys reevesii* が77個体(76%)、次いでミシシッピアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* が22個体(22%)、ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis* が2個体(2%)だった。このように、岡山市北区白壁地区ではクサガメが最も優占していることが明らかになった。なお、日本固有種であるニホンイシガメ *Mauremys japonica* は捕獲されなかった。

しかし、分布と言う観点からみると、クサガメが捕獲されたのは5池中4池であったのに対して、アカミミガメはすべての調査池で発見された。アカミミガメはすでに広範囲に分布を広げていることが確認された。

岡山県において淡水カメの種組成についての報告は見つからないが、クサガメが18世紀末に大陸より持ち込まれた種だとすると(Suzuki et al.,2011)、クサガメが増殖して優占種となっていると予想される。注目されるのは、ここにかつてイシガメが生息していたかどうかであるが、現段階でそれを裏付ける資料はない。今後、岡山平野において残存的にイシガメの生息する場所が発見されれば、イシガメからクサガメへの優占種の交替が起こったことが考えられる。また、本調査においてアカミミガメは22%しか見つからなかったが、今後、個体数がどのように変化するかは注目に値する。

本報文は第一著者の友近沙織が2015年2月に岡山理科大学生物地球学部に提出した卒業研究論文の一部を抜粋したものである。

引用文献

Suzuki, D. Ota, H. Oh, H.-S. and Hikida, T. 2011. Origin of Japanese populations of Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii* (Reptilia: Geoemydidae), as inferred by a molecular approach. *Chelonian Conservation and Biology* 10: 237–249.

谷口真理・亀崎直樹. 2011. 西日本におけるミシシッピアカミミガメの高密度生息域. *爬虫両棲類学会報* 2011(1):83. (講演要旨)

安川雄一郎. 2002. ミシシッピアカミミガメ. p. 97. 日本生態学会(編). 外来種ハンドブック. 書人書館, 東京.